

第二項 臺灣ニ於ケル流行

一、大正七八年ノ交ニ於ケル流行

臺灣ニ於テハ大正七年四月五月ノ頃多少流行アリタルモ著シカラスシテ熄ミタリ。然ルニ本病ハ同年秋季ニ至リ大流行ノ端ヲ發シ十一月初旬ヨリ十二月中旬ニ至リ最モ猖獗ヲ極メ十二月十五日迄ノ統計ヲ見ルニ患者七十七萬九千五百二十三人死者二萬五千三百九十四人ヲ出シ翌年三月ニ至リ終熄ヲ告ケタリ

今臺灣總督府ニ於テ調査セル初發以來七年十二月十五日迄ニ於ケル流行性感冒患死者數ヲ掲クレハ左ノ如シ

第一表 流行性感冒患死者(其ノ一)

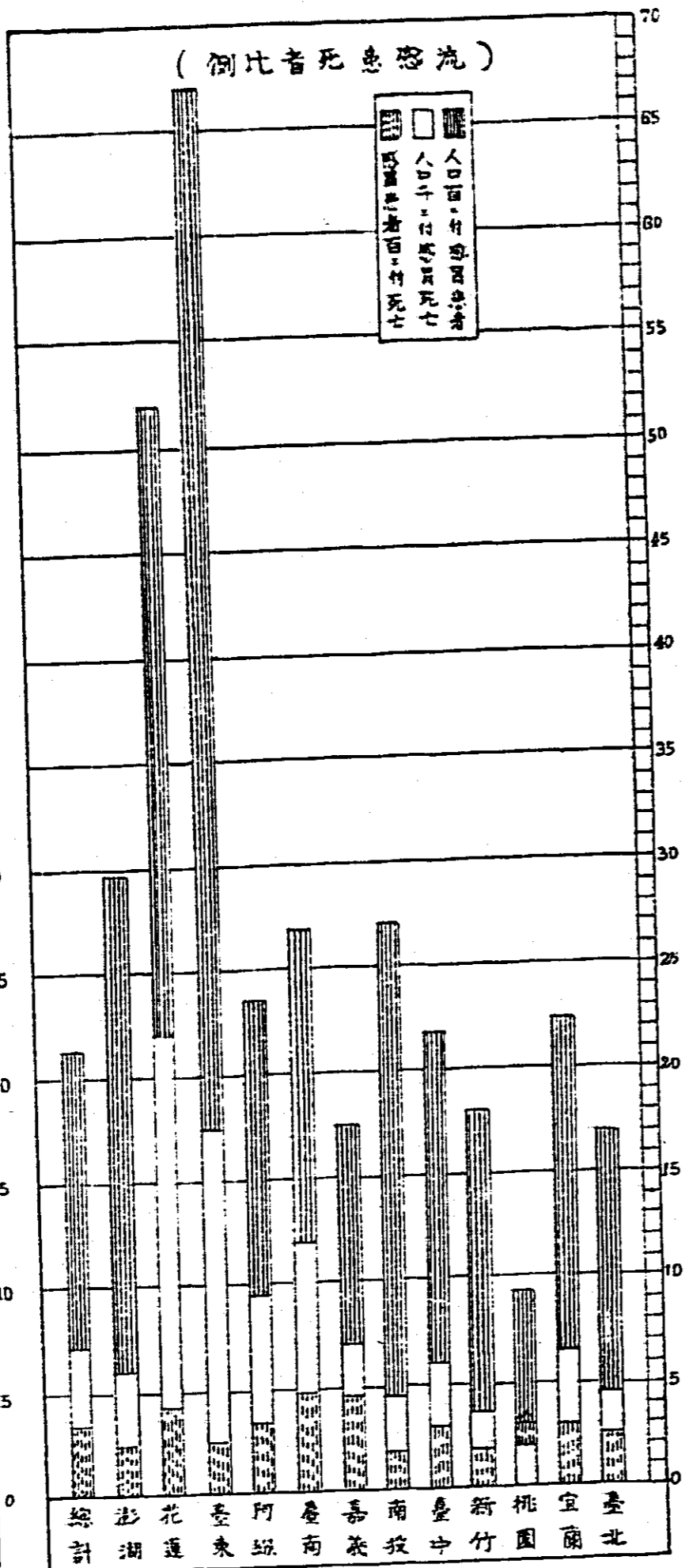
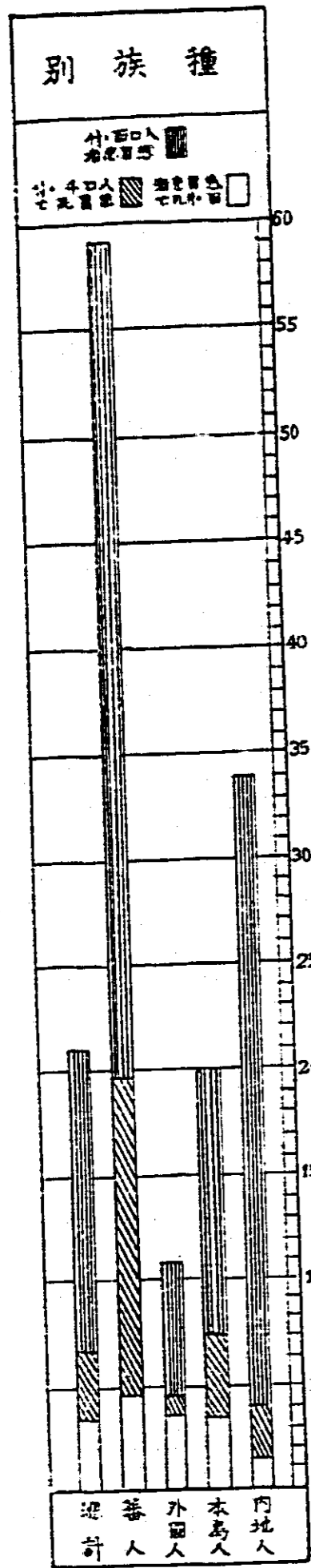
廳別	初發以來十二月十五日迄		人口百ニ付患者		患者百ニ付死亡		人口千ニ付死亡
	男	女	男	女	男	女	
臺北	11,111	10,111	170	168	27	26	4,444
桃園	10,000	9,000	160	150	26	25	4,000
新竹	8,888	7,888	130	120	15	14	3,333
臺中	7,777	6,777	110	100	14	13	2,777
南投	6,666	5,666	100	90	15	14	2,666
嘉義	5,555	4,555	90	80	16	15	2,555
台南	4,444	3,444	80	70	18	17	2,444
高雄	3,333	2,333	70	60	21	20	2,333
屏東	2,222	1,222	60	50	27	26	2,222
合計	55,555	50,555	800	750	14	13	15,555

廳別	初發以來十二月十五日迄		人口百ニ付患者		患者百ニ付死亡	
	男	女	男	女	男	女
臺北	11,111	10,111	170	168	27	26
桃園	10,000	9,000	160	150	26	25
新竹	8,888	7,888	130	120	15	14
臺中	7,777	6,777	110	100	14	13
南投	6,666	5,666	100	90	15	14
嘉義	5,555	4,555	90	80	16	15
台南	4,444	3,444	80	70	18	17
高雄	3,333	2,333	70	60	21	20
屏東	2,222	1,222	60	50	27	26
合計	55,555	50,555	800	750	14	13

(別紙圖表参照)

第一表 流行性感冒患死者(其ノ二)

廳別	初發以來十二月十五日迄			人口百ニ付患者			患者百ニ付死亡		
	内地人	本島人	外國人	内地人	本島人	外國人	内地人	本島人	外國人
臺北	11,111	10,111	1,111	170	168	27	26	27	26
桃園	10,000	9,000	1,000	160	150	26	25	26	25
新竹	8,888	7,888	888	130	120	15	14	15	14
臺中	7,777	6,777	777	110	100	14	13	14	13
南投	6,666	5,666	666	100	90	15	14	15	14
嘉義	5,555	4,555	555	90	80	16	15	16	15
台南	4,444	3,444	444	80	70	18	17	18	17
高雄	3,333	2,333	333	70	60	21	20	21	20
屏東	2,222	1,222	222	60	50	27	26	27	26
合計	55,555	50,555	5,555	800	750	14	13	15,555	14,555



(102/次) -

第三表 諸學校ニ於ケル流行性感冒狀況 (初發者ヲ大正七年十二月十五日迄)

縣別	學校數	休校數	平均休校日數	職員		生徒	
				職員數	付感者	生徒數	付感者
臺北	10	7	7	4	2	28,377	2,233
宜蘭	3	2	2	1	1	26,377	2,233
桃園	6	5	5	3	2	21,177	2,233
新竹	2	1	1	1	1	14,177	2,233
總計	21	15	15	9	6	90,111	8,932

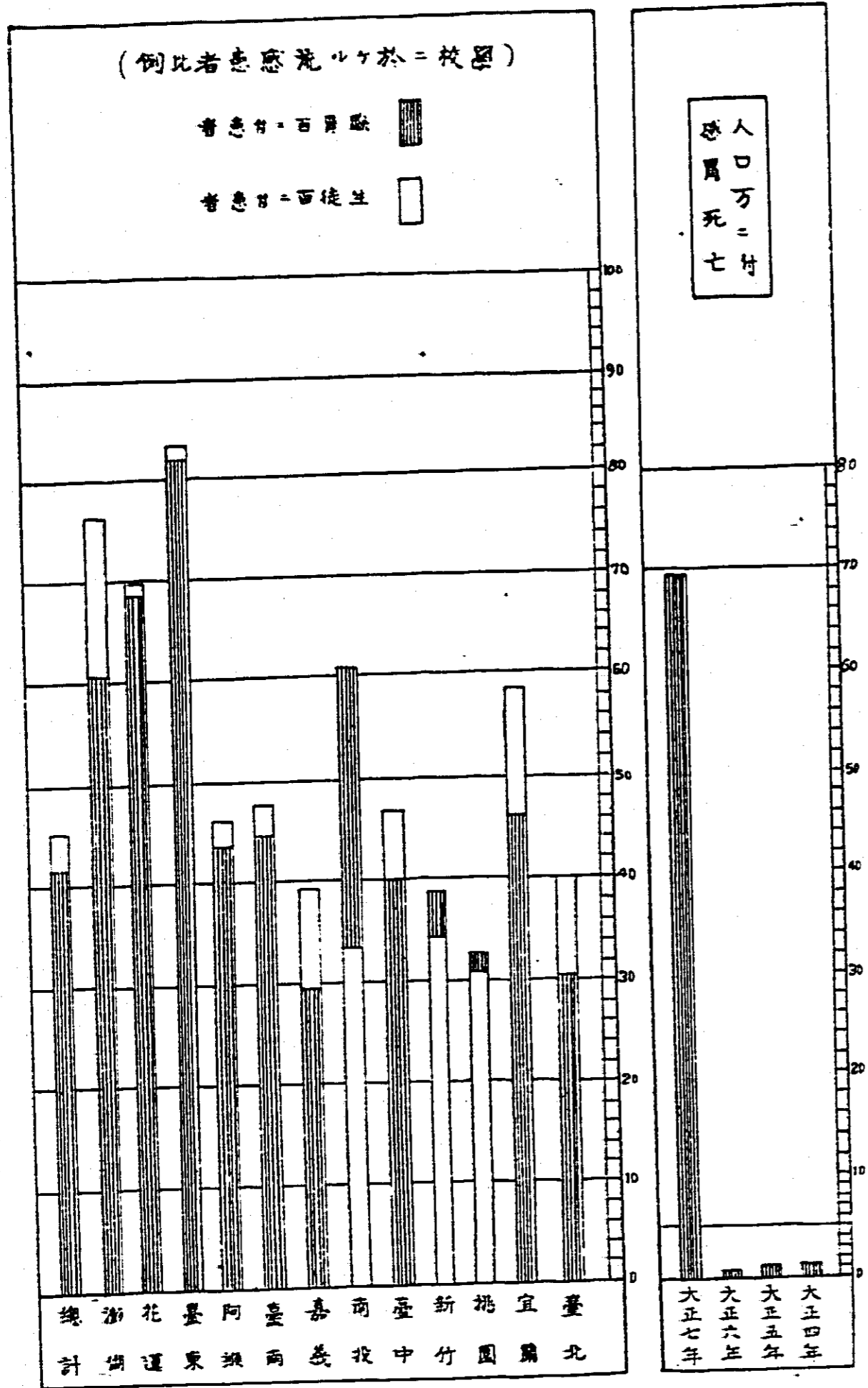
第二表 年別流行性感冒死亡比較 (大正七年ハ十二年十五日迄トス)

年別	死亡數			人口萬ニ付死亡		
	内地人	本島人	外國人	内地人	本島人	外國人
大正四年	1	4	3	1.1	1.1	1.1
大正五年	1	3	2	1.1	1.1	1.1
大正六年	3	2	1	1.1	1.1	1.1
大正七年	6	3	7	1.1	1.1	1.1
合計	11	12	13	1.1	1.1	1.1

(別紙圖表参照)

(別紙圖表参照)

項目	合計
總計	5,779
内地人	1,993
本島人	3,786
外國人	0
生蕃人	0
合計	5,779
人口萬ニ付死亡	1.1
合計	1.1
内地人	1.1
本島人	1.1
外國人	0
生蕃人	0
合計	1.1



合	臺南	嘉義	臺中	南投	嘉義	阿緬	臺東	花蓮	澎湖
計	中	投	南	嘉	市	緬	東	花	湖
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	六	六	六	六	六	六	六	六	六
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四

(別紙圖表参照)
二、大正八、九年ノ交ニ於ケル流行

(一) 流行状況

臺灣ニ於ケル流行性感冒第二回ノ流行ハ大正八年十二月初旬軍隊内ニ發生セルト一方内地ヨリ渡來セル者並ニ其ノ關係者ニ多少ノ患者ヲ出シタルトニ初マリ十二月下旬ヨリ翌一月初旬ニ於テ各地順ニ流行ノ狀勢ヲ呈シ殊ニ臺北臺中嘉義臺南廳下ニ於テ最モ劇シク漸次他地方ニモ蔓延シ、一月下旬ニ於テ一般ニ流行ノ絶頂ニ達シ新患者ノミニテモ十日間ニ三萬八千四百三十三人ヲ出シタリシカ二月末旬ニ於テハ六千五百七十人ニ減少シ氣候等ノ關係モアリ三月中旬ニ至リ流行終熄ヲ見ルニ至レリ
今初發以來三月十日迄ノ總計ヲ舉レハ患者十五萬三千六百四十九人死者一萬九千九百五十一人ニシテ死亡率一二九八%ニ當レリ

(二) 本病流行ニ因ル各般ノ影響

今回ノ流行及其ノ影響ハ一昨年ノ如ク劇甚ナラサルカ如キモ尙一般大小ノ打撃ヲ被ラサルハナシ、流行期中ノ主ナル影響ヲ舉クレハ左ノ如シ
 イ、郵便電車事務ノ滯留、吏員及集配人中三分ノ二ノ罹患缺勤者ヲ出シ郵便ノ如キ配達回數ヲ平常ノ半數ニ減シ、電信事務モ著シク滯留シタリ
 ロ、鐵道ニ於テモ貨物列車ノ運轉回數ヲ減スルノ止ムナキニ至レリ
 ハ、商業ハ各地共ニ沈靜ノ状態ニテ興行物等ハ觀客少ク自然休業ノ状態ニアリタリ
 ニ、諸學校ニ於テハ五日乃至十五日間ノ臨時休校ヲ爲セルモノ多數ニ上レリ
 ホ、病院滿員ノタメ入院申込ヲ謝絶スルモノ尠カラズ、看護婦ノ罹患スルモノ多ク之レカ缺乏ニ困難セリ

(三) 豫防措置及救護狀況

イ、流行ニ先チ地方長官及各種學校長ニ豫防方ヲ通達ス
 ロ、内地、海外ヨリノ病毒輸入ヲ防止スヘク基隆、打狗等ニ於テ檢疫ヲ嚴行シ咳患者ノ有無ヲ調査シ其ノ行先地方廳ニ通報シ適當豫防法ヲ講セシム
 ハ、豫防注射ノ普及ヲ計劃シ一萬圓ノ豫備金支出ヲ爲シテ研究所ヲシテ製造セシメ約五十萬人分製造各廳ニ無料配布ヲ爲シタリ
 ニ、豫防心得書ノ配付
 ホ、各地方廳ニテハ含嗽藥ノ無料又ハ安價供給、マスクノ使用獎勵、及安價供給、氷塊ノ安價供給等ノ方法ヲ講ス
 ヘ、警察、防疫、檢驗等ヲシテ診療ニ從事セシム

ト、避病院ノ開放、臺北及嘉義ニ於テハ應急措置トシテ避病院ニ患者ヲ收容シ救護ニ努ム
 大正八、九年流行ニ於ケル流行性感冒患死者表(臺灣總督府調査)

期 日	患 者	死 亡	計		患者百ニ付死亡
			患 者	死 亡	
自大正八年十二月初發	二九、九二七	一、七一四	二九、九二七	一、七一四	五・七三
至大正九年一月十日	一七、二七九	一、六八三	一七、二七九	一、六八三	
自一月十一日、至一月十五日	一六、四四七	二、一七一	一六、四四七	二、一七一	
自一月十六日、至一月二十日	一五、三八五	二、三六一	一五、三八五	二、三六一	
自一月廿一日、至一月廿五日	二二、〇四八	二、七五五	二二、〇四八	二、七五五	一二・四三
自一月廿六日、至一月卅一日	一四、七五三	二、三〇四	一四、七五三	二、三〇四	
自二月一日、至二月五日	九、〇〇七	一、七二八	九、〇〇七	一、七二八	
自二月六日、至二月十日	一〇、八九五	一、九一二	一〇、八九五	一、九一二	
自二月十一日、至二月十五日	六、五七四	一、三三三	六、五七四	一、三三三	
自二月十六日、至二月二十日	六、五七〇	一、二六三	六、五七〇	一、二六三	
自二月廿一日、至二月廿九日	三、七六四	七〇七	三、七六四	七〇七	一八・七八
自三月一日、至三月十日	二五三、六四九	一九、九五二	二五三、六四九	一九、九五二	一二・九八
計			一五三、六四九	一九、九五二	

自大正八年十二月各廳流行性感冒死者表(臺灣總督府調査)

廳 名	患 者	死 亡	患者百ニ付死亡
臺 北	二二、六四二	三、一九六	一三・五二
臺 南	三八九	九〇	二三・一四

合	澎湖	花蓮	台東	阿公	臺南	嘉義	南投	台中	新竹	桃園
計										
	一五三、六四九	一三二	八五九	五一六	一〇、六七八	一五、七六六	二五、三五九	一三、四四二	三五、五八七	一一、二〇八
	一九、九五二	八	一三七	二二	一、四五九	一、二八四	四、三四六	一、一八〇	四、八六五	一、三九七
	一一、九八	六〇六	一五、九五	四、二六	一三、六六	八、一四	一七、一四	八、七八	一三、六七	一一、四四
	一一、九八	六〇六	一五、九五	四、二六	一三、六六	八、一四	一七、一四	八、七八	一三、六七	一一、四四

第五章 我邦ニ於ケル豫防並救療施設

第一節 一般概況

一、既往ノ流行ニ於ケル施設
 我邦ニ於ケル流行性感冒ノ流行ハ明治二十三年世界的大流行ノ影響ヲ受ケテ大ナル流行ヲ見タル以來今日マテ年々多少ノ患者發生アリタルモ著シキ流行ヲ見ルニ至ラス、從テ之カ豫防施設ニ關スル過去ノ記録ニ徵スルモ特殊ノ施設アリタルヲ見ス、明治二十三年ニ於ケル流行時ノ豫防施設ニ就テハ當時ノ官報ニ掲載セラレタル府縣ニ於テ施設シタル豫防ニ關スル記事ニ據リテ一般ヲ窺知シ得ヘシ、之ニヨリテ見ルニ或ハ告諭ヲ發シテ早期治療ヲ薦メ悪性ノ合併症ヲ起ササル様注意シ或ハ傳染病ニ準シテ届出ツヘキ旨縣令ヲ發布シ或ハ本病ノ病狀等ヲ印刷シテ關係方面ニ配付シ之カ警戒ヲ與ヘ或ハ地方ニヨリテハ學校ノ一時的閉鎖ヲナセル等相當豫防警戒ニ努メタル府縣アリタルモ多一般ハ的豫防注意ヲナセルニ留マリ特殊ノ施設ヲ見サリキ、當時ノ官報ヲ摘録シテ左ニ掲クヘシ

兵庫縣ニ於テハ目下歐米諸國ニ蔓延流行セル流行性感冒本邦ニ侵入ノ兆アルニ付豫メ醫師ニ申合メ置キ若シ該病發生セシ節ハ直ニ其狀況ヲ申報スヘキ旨本月十九日郡市長ニ訓令セリ

(明治二十三年二月二十四日官報)

福島縣ニ於テハ目下歐米各國ニ蔓延流行セル流行性感冒本邦ニ侵入ノ兆アルニ付キ萬一管下ニ流行ヲ來スモ計リ難ク而シテ一旦該病ニ感染スルトキハ往々氣管支肺炎又ハ肋膜炎等

ノ餘病ヲ併發スルノ恐アルヲ以テ若シ感冒ニ罹リタルト思惟スルトキハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケ等閑ニ付セサル様注意スヘキ旨此程管内ニ告諭セリ(同年二月二十八日官報)

島根縣ニ於テハ醫師ニ於テ流行性感胃患者ヲ診察シタルトキハ發病月日住所姓名職業年齢ヲ轉歸シタルトキハ月日姓名ヲ三日以内ニ市役所戸長役場町村役場へ口陳又ハ書面ニテ通知シ市役所戸長役場町村役場ニテ其通知ヲ受ケタルトキハ市役所ハ直ニ其他ハ島廳郡役所ヲ經テ縣廳へ届出ツヘキ旨ヲ去月二十二日發令セリ(同年三月六日官報)

鹿兒島縣ニ於テハ目下歐米各國ニ蔓延流行セル流行性感胃本邦ニ侵入ノ兆アルニ付キテハ縣下ニ於テモ自然蔓延流行スルヤモ保シ難キニ付キ該病發生セシ節ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ深ク注意スヘキ旨告諭スルト同時ニ醫師ニ於テ該患者ヲ診斷スルニ當リテハ其患者ノ住所氏名發病ノ月日等ヲ記シ報告スヘキ旨ヲ告示セリ(同年三月十一日官報)

山口縣ニ於テハ目今歐洲諸國ニ蔓延セル流行性感胃ノ我國ニ於テモ横濱神戸ニ疑似ノ症ヲ發シタルヲ聞キ此際一般ニ警戒ヲ與フルノ必要アルヲ認メ該病性狀取調書ヲ印刷シ各郡市役所警察署町村役場醫師等へ配付シ其注意ヲ促セリ(同年三月十一日官報)

愛知縣ニ於テハ目下歐米諸國ニ蔓延セル流行性感胃本邦ニ侵入ノ兆アル趣ニ付キ萬一管下ニ發生シタルトキハ患者及其轉歸ヲ届出ツヘキ旨去月二十四日醫師ニ令達シ尙該病ノ徵候等ヲ講究並ニ届出手續ヲ協議スヘキ旨郡市ニ設クル醫師會へ同月二十四日通牒セリ(同年三月十八日官報)

鳥取縣ニ於テハ本月中旬ヨリ縣立師範學校生徒ノ流行性感胃ニ罹ル者四十餘人ノ多キニ及ヒタルヲ以テ此際一般ニ警戒ヲ與フルノ必要アルヲ認メ今般其注意方ヲ管内ニ告示セリ(同年

五月三十日官報

新潟縣ニ於テハ流行性感胃疑似ノ症點發ノ兆アルヲ以テ本月二十七日左ノ論達ヲ發セリ(同年五月三十日官報)

昨年來歐米諸國ニ蔓延セル流行性感胃ハ傳播ノ迅速ナル瞬間四方ニ波及シ貴賤貧富ノ別ナク其災害ニ罹ラサル者殆ント稀ナリ幸ニ其病毒ニ斃ル者尠シト雖モ老幼及妊婦虛弱ノ者ハ最モ注意セサルヘカラサルモノトス頃日既ニ東京市其他二三ノ諸縣ニ流行シ目下縣下ニ於テモ疑似ノ症點發ノ兆アルニ付キ若シ該病ニ感染ノ疑アルトキハ其症ノ輕重ヲ論セス速ニ醫療ヲ請ヒ以テ他病併發ノ患ヲ免レンコトヲ勉ムヘシ健康者ニ於テモ此際平素專ラ攝生ヲ主トシ且ツ寒變ヲ避ケ不測ノ襲侵ヲ被ラサル様各自精々注意スヘシ

岩手縣西磐井郡一關町ニ於テ去月中旬ヨリ流行性感胃ヲ患フル者頗ル多ク殊ニ高等小學校生徒總數三百餘人ノ内該病ニ罹ル者七八十人尙流行ノ兆アルヲ以テ一時休校シ續テ尋常小學校生徒中ニモ罹患ノ者生シ是レ亦休校スルニ至レリ然レトモ其病性ハ輕易ニシテ四五日間ヲ經レハ自然快癒ニ趣クノ景狀ナルヲ以テ醫師ノ治療ヲ受クル者極テ稀ニ隨テ患者人員ノ統計ヲ得ルニ由ナキモ同町戸數凡ソ千二百戸中罹患者アルハ無慮三四百戸ニ達セルナルヘシ其他二戸郡石切所村ニ於テ鐵道工事ニ從事ノ煉化職工數十八ニモ同病ヲ發生シ且ツ追々各部ニ蔓延流行ノ兆アルヲ以テ今般縣廳ヨリ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ餘病併發等ノ慮ナキ様厚ク注意スヘキ旨此程管内へ告諭セリ(同年六月四日官報)

宮崎縣ニ於テハ近時流行性感胃ノ成アルヲ以テ管下開業醫師へ該症ノ診察ヲ爲セシトキハ六種傳染病ノ手續ニ準シ届出ツヘキ旨縣令ヲ發シタリシカ目下該病ニ罹リ治療中ノ者二十八

人ニ及ヒタルヲ以テ此際一層警戒ヲ加フルノ必要ヲ認メ今般更ニ其注意方ヲ管内へ諭告セリ
(同年六月十二日官報)

和歌山縣ニ於テハ去月下旬ヨリ和歌山市及日高西牟婁兩郡内ニ流行性感胃ヲ發生シ目下流
行ノ程モ計リ難キニ付キ攝生注意方ヲ管内一般へ告諭セリ(同年六月十七日官報)

二、今回ノ流行ニ於ケル施設

大正七年初秋ノ候本病流行ノ兆アルヲ認ムルヤ本省ニ於テハ之カ對應策ヲ講スルノ必要ヲ
認メ内外學者ノ研究成績及醫學會ニ於ケル報告討論等本病ニ關スル研究ノ程度ニ順應シ海外
諸國ニ於ケル豫防施設ヲ參酌シ大要左ノ方針ニ據リ順次之カ實施ヲナシタリ

- 一、一般ノ注意ヲ喚起スル爲ニ豫防心得ニ關スル印刷物又ハ繪畫ノ配布其ノ他有效適切ト認ム
ル一切ノ方法ヲ講スルコト
- 二、「マスク」ノ使用ヲ獎勵シ「マスク」ヲ得ルノ途ナキ者ニ對シテハ之ヲ給與スルノ方法ヲ講シ殊ニ
患家其ノ他感染ノ虞アル場所ニ於テハ必ス之ヲ使用セシムルコト
- 三、劇場、寄席、活動寫真館等ノ入場者又ハ電車、乗合自動車等ノ乘客ニ對シテハ流行ノ狀況ニ依リ
呼吸保護器ヲ使用セサル者ハ可成入場若ハ乗込マシメサル様適切ノ方法ヲ講スルコト
- 四、流行地ニ於テハ可成多數ノ衆合ヲ避ケシムルコト
- 五、一般ニ含嗽及豫防接種ヲ獎勵スルコト
- 六、頭痛發熱等身體ニ異狀アルトキハ必ス速ニ醫師ノ診療ヲ受ケ靜養スルコト
- 七、患者ハ可成隔離シ全治ニ至ル迄ハ外出ヲ遠慮セシムルコト
- 八、療養ノ途ナキ者ニ對シテハ相當救療ノ方法ヲ講スルコト

九、豫防並治療ノ效果ヲ認ムルノ一方法トシテ豫メ市町村ノ傳染病院又ハ隔離病舎ヲ利用スル
ノ方法ヲ講スルコト

十、前各項ヲ實行スルニ付地方團體、衛生團體、救療團體、學校、會社、工場其ノ他公私團體並篤志家等
ノ活動ヲ促スコト

之カ實施ニ就テハ主トシテ地方長官ヲ督勵指示シ之ニ當ラシメタルカ本省ニ於テハ豫防ニ
關スル「ボスター」ヲ考案シテ之ヲ地方廳ニ配布シ又各種豫防施設ノ視察並督勵ノ爲本省吏員ヲ
全國各府縣ニ特派シ或ハ本病豫防從事員ノ職務感染者ニ對スル手當方法等ヲ訓令スル等極力
各地方ニ於ケル實行ヲ助成シタリ

斯クノ如クシテ前後二回ノ流行ヲ經過シタリシカ更ニ大正九年秋冬ノ候ニ於テ第三回ノ流
行ヲ繰リ返スヘキヲ豫想シ之カ對策ヲ講センカ爲メ防疫官ヲ歐米ニ派遣シ各地ノ施設狀況ヲ
視察報告セシメ衛生局ニ臨時囑託ヲ置キ本病ノ豫防方法ニ關シ内外ノ學說等ニ付調査ニ從事
セシメ尙本邦各地ノ學者、實地家ノ意見ヲ聽取シ之等ヲ參酌シテ流行性感胃豫防要項ナルモノ
ヲ得之ヲ地方長官ニ訓令シ相當施設ヲ促スト共ニ關係各方面ニ廣ク印刷配布シタリ

各地方ニ於テハ本病流行ノ兆アルヤ本省ノ方針ニ策應シ各種ノ施設ヲ各種ノ手段方法ヲ以
テ之カ實施ニ努メ豫防宣傳方法トシテハ劇場、寄席ノ開演中ヲ利用シ講演ヲナシ或ハ大道演說
ヲ爲シ或ハ飛行機ヲ利用シテ豫防心得ヲ配付スル等ノコトヲ爲シ又ハ含嗽劑ノ無料配付、「マス
ク」ノ實費供給ヲナシタルアリ、又豫防接種ヲ實費ヲ以テ或ハ無料ヲ以テ施行獎勵セルアリ、埼玉
縣、群馬縣、三重縣、廣島縣、福岡縣、秋田縣ニテハ縣令ヲ以テ補助規定ヲ設ケ町村ニテ本病ノ豫防又
ハ救療等ニ要シタル費用ニ對シ一定ノ補助ヲナシ福井縣ニ於テハ縣令ヲ以テ醫師ニ届出消毒

指示ノ義務ヲ命シ且ツ患者ノ居室ニ出入スルモノ接客業者ニシテ本病ニ罹患セルモノニハ必
ス「マスク」ヲ使用セシメ流行地ト指定セラレタル地方ニ於テハ汽車、電車、自動車等ノ營業者及劇
場、寄席等ノ營業者ハ「マスク」ヲ使用セサルモノノ乗車又ハ入場ヲ拒ムコト等ヲ規定シ之レカ豫
防ニ努メタリ

救療ノ方面ニテハ恩賜濟生會ノ事業ト連携シ巡回救療ヲ爲シ又ハ赤十字社其ノ他ノ公私公
益團體ト協定シテ各方面ニ於ケル救療ノ遺憾ナキヲ期スル等ノ努力ヲ爲シタリ

第二節 本省ニ於ケル施設

一、大正七、八年流行ニ於ケル施設

大正七年十月惡性ノ感冒各地ニ發生シ傳染力猛烈ニシテ慘害又夥カラサルノ赴各地方ヨリ
通報アリ本省ヨリハ不取敢防疫職員ヲ比較的流行烈シキ滋賀、愛知、兵庫、廣島、茨城、埼玉ノ諸縣ニ
派シ其ノ病狀慘害ノ程度等ヲ調査スル處アリ

當時海外駐在領事ヨリ亞米利加、南洋諸島ニ於テ「グリップ」又ハ「スパー」ニツシユ、インフルエン
ザ「ト稱スル一種ノ惡性ナル感冒ノ流行熾烈ニシテ多數ノ患死者ヲ出シツツアル旨報告アリ、之
カ症狀傳染力ノ猛烈ナル點等今回本邦ニ於テ發生セルモノニ酷似セリ、又支那沿岸ニ於テモ同
様ノ疾患流行シツツアル旨電報アリ、是等海外ノ事情ハ時々各港務部、檢疫所ニ電報ヲ以テ通知
シ海外ヨリノ病毒侵入ノ阻止ニ努ムルト共ニ一方各府縣ニ對シテハ左記通牒ヲ發シテ之カ豫
防ニ關シ警告スル處アリタリ

內務省發衛第一九六號

大正七年十月二十三日

衛生局長

警視總監 監 宛

各地方長官 宛

惡性感冒ノ豫防ニ關スル件依命通牒

本春内地ニ流行セル特種ノ感冒ハ夏季ニ至リテ病勢衰ヘタリシモ更ニ初秋ノ候ニ入リテ復
諸府縣ニ散發スルニ迫ヒ其ノ病勢熾烈ナル向地方ニ在リテハ竟ニ諸學校ノ授業ヲモ中止セル
向アリタルヤニ及聞候處一面海外ヨリノ情報ニ依レハ別紙ノ如ク南亞聯邦北米其ノ他ノ地方
ニ於テ「スパー」ニツシユ、インフルエンザ「ト稱スル惡性感冒ノ爲ニ慘禍ヲ蒙リツツアル趣ニ有之之
等特種ノ感冒カ世界的ニ流行シツツアルハ爭フヘカラサル事實ニシテ國民保健上寔ニ憂慮ニ
堪ヘサル次第ニ有之候ニ就テハ各地方ニ於テハ此ノ際本病ニ對シ弘ク一般ノ注意ヲ喚起シ適
當ノ處置ヲ施ス等豫防上相當御取計相成候様致度

(別紙)

在孟買 桑 島 領 事

十月九日發 外務省着電

熱病ノ流行ハ其ノ後當地ニ於テ終熄ヲ告ケタルニ先月中旬ヨリ再發シ前回ニ比シ經過甚タ
不良殊ニ本月初以來一層猛烈トナリ目下毎日七百以上ノ死亡者アリ全市ヲ擧ケテ其ノ撲滅ヲ
講シ居レルモ未タ減退ノ模様ナク漸次各地ニ蔓延シツツアリ

十月十七日 海軍省着電

惡性感冒ノ暴威今ヤ其ノ極ニ達セル南亞聯邦ハ死亡日ニ數千ヲ算シ各都市ヲ荒廢シ漸次地

方村落ニ向ヒ蔓延シツツアリト

一日以降二週間ニシテケープコロニー半島ハ五千ノ死亡者ヲ出シ未タ衰退ノ模様ナク歐人ノ死亡率モ増加シツツアリ當地ハ二三千ノ小都ナルモ死亡百ヲ越エ人心恟々タリ傳播ノ迅速ノ一ヲ超過スルモノノ如シ附近ノ本邦汽船ニハ絶エス警告シ注意ヲ促シツツアルモ若シ不幸ニシテ日本ニ侵入スルカ如キコトアレハ其慘禍恐惶測リ知ルヘカラサルヲ以テ豫メ豫防法ヲ講シ未然ニ防クコト最緊要ナリト思考ス

外務大臣

在新嘉坡山崎領事發 十月十九日着電

悪性感冒目下彼南馬來半島ニ亘リ猖獗ヲ極メ肺炎若ハ心臟麻痺ヲ續發シテ死亡スルモノ頗ル多ク一般ニ恐慌ヲ來シ居レリ

當地寄港本邦汽船ニハ夫々警告中ナリ

外務省着電 大正七年十月十九日

在晚香港 浮田領事

加奈陀東部地方ニ流行シ居タル「スバニツシユ、インフルエンザ」約十日以前ヨリ當地地方ニモ發生シ爾來患者續發猖獗ヲ極ムビクトリアハ十月十四日ヨリ晚香港ハ同十八日ヨリ學校集會等ヲ閉鎖セリ在留民間患者頗ル多ク恐慌ヲ來シ居レリ

外務省着電 大正七年十月二十日

在桑港 太田總領事

米國東部地方ニ於テ過般來猖獗ヲ極メタル「スバニツシユ、インフルエンザ」ハ一、二週間來桑港

方面ヘモ傳播シ來リ桑港市ニ於テモ既ニ患者約三千ノ發生ヲ見ルニ至レリ該病ハ極メテ惡性ノ流行性感胃ニシテ發病後幾許モナク急性肺炎ヲ惹起シ易ク既ニ在留本邦人ノ内ニモ死亡者若干ヲ見ルニ至レリ

在上海 入倉榮暉

十月二十日午前十一時四十四分發電

衛生局長

寧波附近ノ河岸ニ沿フテ熱發ヲ伴フ吐瀉症大流行死者極メテ多シト云フ、上海ニモ類似ノ病死者發生ノ風説アレト未タ病名及流行狀況ノ詳細ヲ知ルヲ得ス調査中ナリ

在香港 鈴木榮作

十月十九日午後三時十分發電

三井貨物船浦賀丸ハ十八日蘭貢ヨリ當地ニ入港シタルカ航海中船員三十九名ノ内二十八名ハ病名不詳ノ熱病ニ罹リ船長外一名死亡シタリ該船當地入港後開業醫ハ「インフルエンザ」ト診斷シタリ該船ハ昨日出帆基隆ヲ經テ橫濱ニ向フ何等參考迄通報ス
尙ホ船長ノ屍體ハ當地剖檢所ニテ検査中

十月二十日 海軍省着電

十六日以來病勢減退シ今十九日新患者死亡共ニ著シク減少シ終熄期遠カラス
十日ダーバン發日本ニ向ヒタル加賀丸ニ患者發生セリ

病勢ハ十一月ニ入り更ニ猛威ヲ逞ウシ全國ニ蔓延シ都鄙山間ノ別ヲ問ハス之カ侵害ヲ受ケサル地方ハ殆ト稀レニシテ地方ニヨリテハ學校、工場等ニ患者瀕發シ死者亦相當數ニ上リ遂ニ一時的閉鎖ノ止ムナキニ至リタル所尠カラス蓋シ學校、工場ノ如ク多數人ノ集合セル場所ニ患

者發生セル時ハ忽チ四圍ニ傳播シ爆發的ニ流行ヲ起シ易キヲ以テ之カ豫防上ニモ流行ノ徴アルト共ニ之ヲ一時的閉鎖又ハ休業スルハ多大ノ效果アルヘカリシモ此ノ流行ニ於テハ學校工場等ノ閉鎖休業セルモノハ既ニ大部分侵襲ヲ蒙リタル後之ヲ爲スノ狀況ナリシモノ多カリシヲ以テ其ノ蒙レル慘害ハ多大ナルモノアリキ、又一般家庭ノ上ニモ本病流行ハ幾多ノ哀話ヲ生ミ其ノ慘狀聞クニ忍ヒサルモノ尠カラザリキ、本省ニ於テハ之カ救療ヲ普及徹底セシムルノ急ナルヲ認メ十一月十三日^{財團}濟生會ノ救療ニ關シ地方長官ニ左ノ通牒ヲ發シテ本病患者ニシテ醫療ヲ受クル能ハサル悲境ニ極メルモノノ救濟ノ方法ヲ講セシメ又醫師看護婦等不足ノ地方ニハ之カ補給方ヲ取計ハシムル等救療ニ遺憾ナカラシムルニ努メタリ

靜衛第八七號

大正七年十一月十三日

各地方長官宛

衛生局長

^{財團}濟生會ノ救療ニ關シ依命通牒

這般感冒ノ流行ハ各地方共多數ノ患者ヲ出シ中ニハ爲メニ生業ニ從事スルコト能ハス醫藥給セサル悲境ニ在ル向モ尠カラス可有之是等ニ對シ^{財團}濟生會ノ救療普及方ニ關シテハ既ニ業ニ相當御配慮御實施ノコトト被存候處從來配當ノ救療費殘額遞次繰越金中ヨリ本年度各郡市配當救療費へ此際特ニ若干ノ増額ヲ爲シ尙山間僻陬ノ地ニシテ醫師ニ乏シキ方面へハ視察旁警察醫及藥劑師ヲ派遣スル等ノ方法ヲ講シタル地方モ有之右ハ衛生上好適ノ取計タルト同時ニ^{財團}濟生會ノ趣旨救療ノ普及徹底上機宜ノ措置タルト被存候ニ付爲御參考申進候此際一層適宜ノ方策ヲ執ラレ救療ノ普及ヲ期セラレ候様致度

府縣ニ於ケル流行ノ狀況豫防措置等ハ時々地方長官ヨリ報告アリタルモ之ヲ統一のニ取纏ムル必要ヲ認メ更ニ左記照會ヲ發シテ初發以來ノ患死者流行狀況等聚集綜括シ以テ本病ノ豫防計畫ノ資料トナセリ

發衛第四六號

大正八年一月二十三日

衛生局長

各地方長官宛^(東京ハ)

悪性感冒ノ狀況ニ關スル件照會

客年來流行ノ悪性感冒ノ概況ニ關シテハ既ニ御報告相成居候向モ有之候へ共更ニ左記事項承知致度候條御取調ノ上至急御回報相成度

左記

- 一、流行以來本月十五日迄ノ患死者數
- 二、患者ニ對スル處置及豫防措置等ノ概要
- 三、初發以來蔓延ノ狀況及現在流行狀況
- 四、大正六年及大正七年中ニ於ケル死亡者月別比較表

大正七年十一月最モ猖獗ヲ極メタル流行ハ十二月中旬ヨリ病勢稍々緩和シ患者ノ發生モ減少スルニ至リ漸ク衰退ノ機運ニ向ヒタルモノノ如クナリシモ翌大正八年一月下旬ヨリ再ヒ流行再燃シ肺炎ヲ起シテ死亡スルモノ益々増加シ中耳炎、腦膜炎等ヲ合併スルモノ亦尠カラス依テ一方本病豫防心得書五萬部ヲ印刷シテ各府縣ニ配付シ一般ノ注意ヲ喚起シ自衛的ニ之カ豫防ノ法ヲ講セシムルニ努メ尙地方長官ニ對シ左記通牒ヲ殘シテ一層豫防施設ノ徹底ヲ期シタ

大正八年二月一日

各地方長官宛

衛生局長

悪性感冒ノ豫防撲滅ニ關スル件ニ付依命通牒

客歲猛威ヲ逞ウシタル悪性感冒ノ豫防撲滅ニ關シテハ曩日及依命通牒候次第モ有之努力ノ績大ニ擧リ終熄ノ期モ遠カラサル儀ト被存候處昨今地方ニ依リテハ流行再燃スルト共ニ其ノ病毒更ニ悪性ヲ加ヘ死亡率亦増加セリ今ニ於テ之ヲ撲滅スルニアラサレハ再ヒ慘害ヲ反覆スルノ虞ナシトセス就テハ此際殊ニ左記事項ノ勵行ニ努ムルト共ニ從來ノ施設ヲ徹底セシメ苟モ遺憾ナカラシムルハ勿論弘ク一般國民ノ自覺ヲ促ス等更ニ一段ノ力ヲ竭サレ候様致度

記

- 一、流行地ニ於テハ可成民衆ノ集合ヲ避ケシムルコト
- 二、一般ニ呼吸保護器ノ使用ヲ奨励シ特ニ患家其他感染ノ虞アル場所ニ於テハ必ス之ヲ使用セシムルコト
- 三、一般ニ咳嗽ヲ奨励スルコト
- 四、頭痛發熱等身體ニ異常アルトキハ必ス速ニ醫師ノ診療ヲ受ケ靜養セシムルコト
- 五、患者ハ可成隔離シ全治ニ至ル迄ハ外出ヲ遠慮セシムルコト

流行性感冒豫防心得

大正八年一月 内務省衛生局

はやりかぜは如何して傳染するか

はやりかぜは主に人から人に傳染する病氣であるかぜ引いた人が咳や嚏をすると眼にも見えない程微細な泡沫が三、四尺周圍に吹き飛ばされ夫れを吸ひ込んだ者は此病に罹る
かぜを引いて治つた人も當分の間は鼻の奥や咽喉に此病毒が殘つて居り又健康な人の中にも鼻や咽喉に病毒を持って居ることがある是等の人々の咳や嚏の泡沫も病人同様危険である

罹らぬには

- 一、病人又は病人らしい者、咳する者には近寄つてはならぬ
病中話などするのは病人の爲めでもないから見舞に行つても可成支關ですますがい
病家では御客様を絶対に病室には案内してはならぬ
- 二、澤山人の集つて居る所に立ち入るな
時節柄芝居、寄席、活動寫真などには行かぬがい
急用ならざる限りは電車などに乗らずに歩く方が安全である
かぜの流行する時節に人に近寄る時は用心して人の咳や嚏の泡沫を吸ひ込まぬ様注意なさい
- 三、人の集つて居る場所、電車、汽車などの内では必ず呼吸保護器(「カスベマスク」といふ)を掛け、それ
でなくば鼻、口、を「ハンケチ」手拭などで軽く被ひなさい
「ハンケチ」も手拭もわてずに無遠慮に咳する人嚏する人から遠かれ
- 四、鹽水か微温湯にて度々含嗽せよ、含嗽薬なれば尚ほ良し
食後、寝る前には必ず含嗽を忘れるな

罹つたなら

- 一、かぜを引いたなど思つたなら直ぐ寢床に潜り込み醫師を呼べ
普通のかぜと馬鹿にして賣藥療治で安心するな、外出したり、無理をすると肺炎を起し取り返しの着かぬことになる
- 二、病人の部屋は可成別にし看護人の外は其の部屋に入れてはならぬ
看護人や家内のものでも病室に入るときは必ず呼吸保護器を掛けよ
- 三、治つたと思つても醫師の許しのある迄は外に出るな
地震の震り返しよりも此病氣の再發は怖ろしい

此外氣を付くべきことは

- 一、家の内外を清潔に掃除し天氣のときは戸障子を開放して
室の掃除は可成塵埃の立たざる様に雑布掛けするのが一等
家の周囲は塵埃の立たぬやうに先づ水を撒いて後掃け
學校、幼稚園、寄宿舎、工場などでは殊に是等の事に氣を付けよ
旅人宿、貸席などは客のない間は日中必ず部屋の障子を掛けて置け
- 二、寢具寝衣などは晴天の日には必ず日に曝せ
- 三、用心に亡びなし、健康者も用心が肝心
幼弱なる子供、老人、持病ある者は殊に用心せよ
- 四、人前で咳や嘔をするときは公徳を重じ必ず「ハンケチ」か手拭などで鼻、口を被へ
- 五、病人の咯痰、鼻汁などで汚れたものは焼くか煮るか薬で消毒せよ
病室内の汚れたもの、始末は師醫に相談して遺漏ない様にせよ

更ニ本病ノ爲メ生業ヲ失ヒ醫療ニ浴シ得サル者ニ對シテハ救療上適當ノ方法ヲ講スル様再
ヒ左ノ如キ通牒ヲ地方長官ニ發シ尙本省在勤ノ防疫職員ヲ機ニ應シ流行激シキ地方ニ派シテ
之レカ豫防救療ヲ督勵セシメタリ

發衛第二七號

大正八年二月五日

衛生局長
地方局長

各地方長官宛(東京ハ警視總監
府知事連名)

惡性感胃ノ救療ニ關スル件依命通牒
客歲以來流行ノ惡性感胃ノ爲各地方共實ニ多數ノ患死者ヲ出シ醫藥給メサルノ悲境ニ在
ル尙モ尠カラサル趣之カ救療ニ關シテハ客年十一月十三日發衛第八七號ヲ以テ財團濟生會
ノ救療普及徹底ニ關シ依命及通牒候次第モ有之既ニ充分御配慮相成居候儀トハ存候得共昨
今地方ニ依リテハ其ノ流行再燃スルト共ニ病毒更ニ惡性ヲ加ヘ猛威ヲ逞ウセムトスルノ狀
況ニ有之就テハ之カ爲生業ヲ失ヒ醫療ニ浴セサル悲惨者ニ對シ救療上適當ノ方法ヲ講セラ
ルハ勿論此ノ際慈悲救濟資金大禮恩賜賑恤資金等ノ收入ヲ以テ之カ救療ノ資ニ充ツルカ
如キハ恩賜ノ趣旨ニ副フノ措置タルヘク尙其ノ他各種慈善團體ヲ督勵シテ相當助勢セシメ
ラルル等救療上遺漏ナキヲ期セラレ度
一時慘鼻ヲ極メタル流行モ大正八年三月ニ入りテ次第ニ衰頽ニ向ヒ同四月氣候溫暖ノ候ニ
ナルト共ニ殆ト終熄スルニ至レリ

二、大正八、九年流行ニ於ケル施設

大正七、八年秋冬ノ交ニ亘リ殆ト全人口ノ三分ノ一以上ヲ襲ヒ多數ノ死者ヲ出シ疫學上稀有

ノ大流行ヲ極メタル流行性感胃モ夏季ニ至リ一時終熄ヲ見タリシト雖モ本病ハ其ノ性質上再
 ト流行ヲ誘致スルノ虞ナシトモ、時秋冷ニ向フニ當リ呼吸器ヲ犯サルモノ漸ク多キニ及
 ヒ既ニ二三地方ニハ流行性感胃散發ノ報アリ、尙海外ニ於テモ桑港、タコマ、近クハ北清地方ニ於
 テモ本病再發ノ通報アリ、茲ニ於テ本省ハ前回ノ流行ニ鑑ミ再ヒ斯クノ如キ慘禍ヲ繰リ返ヘサ
 サラン爲メ十月二十二日左記通牒ヲ地方長官ニ發シテ本病豫防ノ方法其他注意事項ヲ一般ニ
 周知徹底セシムルニ努メシメ又豫防心得五萬部ヲ印刷シテ本病豫防ノ指針トシテ廣ク各府縣
 ニ配布シ豫メ本病流行ニ對スル豫防措置ヲ講シタリ、(豫防心得書ハ大正八年一月配付セルモノニ豫防注
 略之ヲ)

衛發第七八二號

大正八年十月二十二日

衛生局長

各地方長官警視總監宛

流行性感胃ノ豫防ニ關スル件依命通牒

客年來世界的流行ヲ退クシタル流行性感胃ハ今夏以來流行ヲ見サルニ至リタリト雖本病
 毒ハ其性質上風邪季節ニ入ルト共ニ隱微ノ間ニ毒勢ヲ増加シ漸次流行ヲ來シテ再ヒ慘禍ヲ
 反覆スルノ虞ナシトモ、既ニ海外ニ於テハ本病流行ノ傾向有之就テハ此ノ際本病ノ性質並
 巽ニ流行ノ際實施セラレタル豫防方法ヲ講シ以テ國民自衛心ノ喚起ニ一段ノ力ヲ竭サレ度
 又流行ノ微アル地域ニ在リテハ一般豫防方法ノ勵行ト共ニ特ニ左記事項ノ實行ニ努メラレ
 度尙患者救療ニ關シテハ本年二月五日衛發第二七號通牒ノ次第モ有之候處豫メ相當ノ計劃
 ヲ立テラレ救療上亦遺漏ナキヲ期セラレ度

- 一、一般ニ呼吸保護器ノ使用ヲ獎勵シ呼吸保護器ヲ得ルノ途ナキ者ニ對シテハ之ヲ給與スル
 ノ方法ヲ講シ殊ニ忠家其他感染ノ虞アル場所ニ於テハ必スコレヲ使用セシムルコト
- 二、劇場、寄席、活動寫眞館等ノ入場者又ハ電車乗合自働車等ノ乗客ニ對シテハ流行ノ狀況ニヨ
 リ呼吸保護器ヲ使用セサルモノハ成ルヘク之ヲ入場若クハ乗り込マシメサル様適切ノ方
 法ヲ講スルコト

流行性感胃ニ對シテハ何レノ府縣モ本省ノ通牒ニ基キ豫メ豫防警戒ニ努ムル處アリシト雖
 別項記載ノ如ク十二月ニ至リテハ殆ト各府縣ニ患者ノ散發ヲ見サル處ナク地方ニヨリテハ再
 ヒ流行ノ微ヲ示シ來リタルヲ以テ病毒傳播ヲ防止スル方法ノ一トシテ患者ノ早期隔離治療ヲ
 獎勵セリ、然ルニ一般病院診療所等ノ狀況ヲ見ルニ前回ノ流行時ニ於テハ流行漸ク激シキニ俱
 ヒ入院患者益々増加シ病室ノ不足ヲ告ケ爲ニ入院ヲ拒絕セラレタルモノ尠カラサルニ鑑ミ此
 際市町村傳染病院又ハ隔離病舎等ヲ利用スルハ策ノ得タルモノナルヲ以テ十二月二十七日各
 府縣ニ對シ左ノ通牒ヲ發セリ

衛發第九八五號

十二月二十七日

衛生局長

廳府縣長官宛

流行性感胃豫防ニ關スル件

流行性感胃ノ豫防ニ關シテハ曩日及通牒候次第モ有之候處既ニ流行ノ微アル地方モ有之
 候ニ就テハ此際之カ豫防並ニ治療ノ效果ヲ收ムルノ一方法トシテ豫メ市町村ノ傳染病院又
 ハ隔離病舎ヲ利用スルノ方法ヲ講セラレ候様致度

豫防注射呼吸保護器ノ使用其他流行性感胃ノ豫防ニ關シテハ各種衛生團體ノ盡力ニ俟ツヘキモノ不抄ヲ以テ大正九年一月十二日潮衛生局長ヨリ北里大日本醫師會長宛左ノ照會ヲ發シ以テ豫防方法ノ普及ヲ講スルノ手段ヲ採レリ

拜啓益々御清穢ノ段奉賀候陳者大正七年來世界的流行ヲ逞クシタル流行性感胃ハ客年夏以來流行ヲ見サルニ至リシモ本病毒ハ其性質上風邪季節ニ入ルト共ニ隱微ノ間ニ毒性ヲ増加シ漸次流行ヲ來スノ虞有之候ヲ以テ客秋來之カ豫防ニ關シテハ各地方ニ對シ夫々適切ナル計劃ヲ立テシメ警戒ニ努メ居候得共本年ニ入りテヨリ病勢遽ニ熾烈トナリ死亡率亦増加スルノ傾向アルハ洵ニ遺憾ニ堪ヘサル次第ニ有之候之カ豫防ニ關シテハ各種衛生機關ノ盡力ニ負フ所不抄備ニ有之候處此際特ニ一般ノ注意警戒ヲ促シ呼吸保護器ノ使用豫防注射ノ獎勵等其他豫防上ニ付幾多貴會ノ御配慮ニ俟ツヘキモノ甚々大ナル次第ニ有之候ニ就テハ右等ノ事項實行上一層御配慮相煩度切望ニ不堪此段得貴意候 敬具

尙各府縣ニ於ケル流行性感胃豫防施設狀況ヲ知ルノ要アリ依テ各地方長官宛(東京ハ豫防總監)一月十二日左ノ電報ヲ發セリ

流行性感胃ノ豫防ニ關シ既ニ施設セラレタル事項及將來ノ計畫ノ内容詳細至急報告アリ

流行ハ一月ニ入りテ漸ク激烈トナリ多數ノ患死者ヲ出スニ至リタルヲ以テ益々豫防施設ヲ充實セシムルコト緊要トナリ呼吸保護器ノ使用含嗽豫防注射等之カ普及實施ニ關シテハ先一般官公吏ヲシテ卒先シテ一般人民ニ對シ之カ範ヲ示サシムルノ必要ヲ認メ左ノ如ク夫々照會及通牒ヲ發セリ

其一

衛發第一七號

大正九年一月十四日

次官

- 內閣書記官長
- 鐵道院副總裁
- 行政裁判所長官
- 會計検査院長
- 各省 次官
- 宮内 次官

流行性感胃ノ豫防ニ關スル件

流行性感胃ニ關シテハ客秋來地方ヲ督勵シ銳意之カ豫防方法ヲ講シタリト雖本年ニ入りテヨリ其病勢漸ク熾烈トナルノ傾向アルハ遺憾トスル所ニ有之固ヨリ本病ハ其ノ性質上豫防方法甚々困難ナルモノ有之候得共一般ヲシテ本病ニ對スル自衛的注意ヲ喚起セシムルヲ最モ緊要トスル處ニ有之候就テハ此際貴廳所管ノ全國關係職員ヲシテ卒先シテ特ニ呼吸保護器ノ使用ヲ實行セシメラレ併テ豫防注射及含嗽ヲ獎勵セララルニ於テハ一般ニ及ホス效果不抄ト存候條之カ實行上ニ關シ篤ト御配慮相煩度

其二

內務 次官

省內各局課長

明治神宮造營局長
特殊財産管理局長
造神宮副使

流行性感胃ノ豫防ニ關スル件

本件ニ關シ別紙寫ノ通各省其他へ照會候ニ就テハ本省ニ於テハ他ノ範トナルヘキ様之カ實行上一層御配慮相成度

其三

次官

廳府縣長官宛

流行性感胃ノ豫防ニ關スル件通牒

本件ニ關シ別紙寫ノ通各省其他へ照會候ニ就テハ貴管内關係官公署ニ對シ他ノ範トナルヘキ様之カ實行上一層御配慮相成度

尙流行ハ益々熾烈ニ向ヒ殆ト終熄ヲ豫測シ得サルカ如キ状態ニ陥リ爲ニ曩年ノ慘禍ヲ繰リ返サントスルニ至レルヲ以テ府縣ニ於ケル豫防方法ヲ一層徹底セシメンカ爲メ一月十六日內務大臣ハ廳府縣ニ對シ左ノ訓令ヲ發シタリ

內務省訓第一號

廳府縣

流行性感胃ノ豫防ニ就テハ曩ニ之ニ關スル必要事項ヲ條舉シテ通牒セシムル處アリ廳府縣ニ於テハ既ニ相當施設ノ下ニ之カ豫防ニ努メツツアリト雖本年ニ入りテヨリ其病勢漸ク

熾烈ヲ加ヘムトスル傾向アルハ深ク遺憾トス若不幸ニシテ曩年ノ如キ流行ヲ再ヒスルコトアラシカ其ノ影響甚ニ寒心ニ堪ヘサルナリ此際廳府縣ニ於テハ一段ノ努力ヲ以テ豫防施設ノ普及擴充ニ努メ特ニ左記事項ニ付テハ迅速之カ勵行ヲ圖リ豫防上違算ナキヲ期セラルヘシ

大正九年一月十六日 大臣

一、一般ノ注意ヲ喚起スルニ就キ有效適切ト認ムル一切ノ方法ヲ講スルコト

二、呼吸保護器ノ使用ヲ獎勵シ之ヲ得ルノ途ナキモノニ對シテハ相當給與ノ方法ヲ講スルコト

三、流行地ニ於テハ情況ニヨリ呼吸保護器ヲ使用スルニ非サレハ多衆集合ノ場所ニ立入ラシメサルコト

四、豫防注射及含嗽ヲ獎勵スルコト

五、救療ノ途ナキモノニ對シテハ相當救療ノ方法ヲ講スルコト

六、前各項ノ事項ヲ實行スルニ付一層地方團體衛生團救療團體學校會社工場其他公私團體並ニ篤志家ノ活動ヲ促スコト 以上

上述ノ如ク豫防上有ラユル有效ト思惟スル方法ノ實施ヲ獎勵宣傳スルニ努ムルト雖本病ノ蔓延傳播ヲ容易ニ阻止スル能ハス流行ハ益々猖獗ニ向ヒ且病勢惡化シ多數ノ死者ヲ出スニ至リ一月下旬ヨリ二月上旬ニ於テハ一日全國本病死者ハ一千五百人内外ヨリ多キハ三千餘人ニ達スルニ至リ慘害名狀スヘカラサルモノアリ依テ之レカ狀況ヲ調査スルト共ニ豫防施設ヲシテ一層效果アラシムル爲ニ一月下旬本省防疫職員數人ヲ分チテ各府縣ニ派遣シテ之ヲ督勵シ

一二七

タリ

尙各府縣ニ於ケル豫防施設ノ萬全ヲ期セシムルニハ防疫職員ノ増置ヲ要スヘキヲ以テ二月四日各府縣ニ對シ本病豫防ニ從事スヘキ必要人員ノ申出ヲ照會シ二月六日及同十七日ニ防疫員六十四名防疫監吏七十三名ヲ配置セリ詳細左表ノ如シ

流行性感冒ノ爲防疫職員配置表

道廳及府縣	二月六日配置		二月十七日配置		計
	防疫員	防疫監吏	防疫員	防疫監吏	
北海道	二	一	一	一	二
京都市	六	一	一	一	八
大阪府	一	一	一	一	四
兵庫県	五	一	一	一	八
新長崎	二	一	一	一	五
群馬	一	一	一	一	四
茨城	一	一	一	一	四
栃木	一	一	一	一	四
群馬	一	一	一	一	四
三	一	一	一	一	四
計	二六	一三	一三	一三	五九

道廳及府縣	二月六日配置		二月十七日配置		計
	防疫員	防疫監吏	防疫員	防疫監吏	
愛知	一	一	一	一	四
靜岡	一	一	一	一	四
山梨	一	一	一	一	四
岐阜	一	一	一	一	四
青森	一	一	一	一	四
秋田	一	一	一	一	四
石川	一	一	一	一	四
富山	一	一	一	一	四
島根	一	一	一	一	四
岡山	一	一	一	一	四
廣島	一	一	一	一	四
山形	一	一	一	一	四
徳和	一	一	一	一	四
香	一	一	一	一	四
愛	一	一	一	一	四
計	二六	一三	一三	一三	五九

	高 尾 大 佐 藤 宮 鹿 神
計	見
	知 岡 分 賀 本 崎 島 瀬
五〇	1 1 2 1 1 1 2
四七	1 1 1 2 1 1 1
一四	1 1 1 1 1 1 1
二六	1 1 1 1 1 1 1
六四	1 1 2 1 1 1 2
七三	1 1 1 2 1 1 1

流行性感冒ノ豫防宣傳ニ對シテハ彙ニ豫防心得五萬部ヲ各府縣ニ配附シタルコトハ既述ノ如クナルモ尙之カ要旨ヲ普ク徹底セシムル爲簡單ナル標語ヲ印刷シ汎ク配布シテ一見豫防ノ綱目ヲ會得セシムルハ效果尠カラサルヘキヲ思ヒ一月十九日左ノ標語小札四十八萬枚ヲ各府縣ニ配布セリ

流 感 豫 防

(内務省衛生局)

一、近寄るな——咳する人に

二、鼻口を覆へ——他の爲にも

三、豫防注射を——轉ばぬ先に

四、含嗽せよ——朝な夕なに

尙繪畫ニヨル豫防宣傳方法ヲ計畫シ左ニ掲ケタル五種ノ豫防「ポスター」ヲ各府縣ニ配布セシムルカ爲各五千萬枚宛印刷ニ附セリ然レトモ是等五種ノ豫防「ポスター」配布ニ關シテハ經費ノ都合モアリ二月七日第一種及第二種配布後衛生局長ヨリ左ノ如ク通牒セリ

大正九年二月七日
衛生局長
廳府縣長官宛

流行性感冒豫防「ポスター」彙ニ二葉及送附候處尙「マスク」ノ使用含嗽及豫防注射ノ奨励ニ關スルモノ三葉不日可及送附候へ共經費ノ關係上其部數多カラサル儀ニ有之候就テハ貴府縣ニ於テ相當御増刷ノ上必要ノ向へ普及候様御取計相煩度

追テ右ボスター原版ハ京橋區北横町一成社印刷所ニ保存致居候ニ付一時ニ多數印刷セシムルニ於テハ一葉八錢内外ノ見込ニ有之取纏メ印刷セシムヘク候條必要ノ向ハ至急其部數當局へ申出相成候様致度

右照會後印刷代ノ値上ケ等アリ豫期ノ如ク増刷ノ申込多カラサリシモ北海道、埼玉、愛知、富山、沖繩等ニテ六千餘部ノ増刷申込アリタリ、其他ハ府縣内ニ於テ増刷シタルモノ少カラサリシ如シ(別紙參照)



！「キバ」の「ゼカリヤ」は「恐怖」



！「知らぬ命」は「クスマ」